



30 佐々木二六

《万年青置物》 一点

昭和三年（一九二八）

陶磁

三八・五×五二・五×五二・八

鉢植えの万年青をそのまま実物大で摸して陶土であらわした置物。万年青はその名の通り常緑の園芸植物で様々な葉の形状や模様、質感を楽しむことができ、江戸中期には一般庶民のあいだにも広まり、そのブームは明治期以降も引き続いた。本作品はその遅しく広がる葉と艶やかな赤い実、鬚根のある太い根茎まで、それぞれの質感を上絵付けや釉薬によって見事に再現している。一般的な万年青鉢と呼ばれる鉢は、円筒形で三脚がつき縁が水平に広がる形状をしたものであるが、本作品は木瓜形の四脚の鉢としており、上げ底にして二色の陶製の土片を一・五cmほどの厚さで敷き詰めている。万年青、鉢ともに「松柏庵」「二六」の二つの印銘がある。昭和三年（一九二八）の大札に際して、愛媛県より献上された。

佐々木二六（一八五七～一九三五）は、愛媛県宇摩郡松柏村（現在の同県四国中央市）の出身で瓦師を生業としていたが、明治十五年（一八八二）以降、各地の窯場を歴遊して研究をおこない、「掘込細工」という技法を創出した。同三十五年に開窯して二六焼を始め、翌年の第五回内国勸業博覧会に出品して世評を高めた。山水や花鳥、人物の彫刻を花瓶や茶器の器表を塗ませて貼り付ける手法を特徴としている。万年青は二六が最も得意とした作品であった。作者は本名を六太郎といい、二代目六太郎から「二六」を雅号とし、自らのやきものの名称とした。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzokan